

開催日時	令和3年10月15日(金) 19時00分～
開催場所	Web会議
出席者	間瀬、沖山、山本、木澤、正木、永嶋、中川、堤、前川、伊藤、小森、檀辻、成田、岩田、小山、樋笠、有吉、清原、鮫島、岩井
欠席者	本田、山口
記録者	中川
議題1	日本理学療法士協会との意見交換会

日本理学療法士協会からの出席：協会理事2名。職員1名
2年前に全国の都道府県で各2回意見交換会を行った。
都道府県によって問題が違って、なかなかコミュニケーションをとるのが難しい。
士会支援系の業務の紹介
組織体制強化支援に関する事（それぞれの特有の課題を共に考えともに解決の糸口を見出すための支援）
本会との共同事業に関する事（協会モデル事業を都道府県理学療法士会事業として全国展開するための支援）

第1回で都道府県の抱えている問題点を考える。
事務局体制 理学療法士会の概要説明 会員構成など。
支部により状況が違い、研修会など機会均等が難しい。
職員人件費率 令和元年 13.5%
専門職の常勤が1名なので対外的な活動をするときに難しい。
専門職の常勤は将来行いたい事業に向けて行うために必要。
公の施設に勤務されていた人が常勤になるのがいいと考えている。
士会援助金の用途 事務局機能強化にしようとしている。
事務局を強化していく上での課題： 財源、人材

事業運営 収益構造比率 会員会費率 82.5%
協会と同様になっている。
会員費以外の収入を増やす方向を考えている（補助金など）。
沖縄県では50%になっている。（予算規模が少ないのでその年によって
極端になっていることもある）何か参考になればいいと考えている（協会）
協力していただいている会員の実人数 382人（7%）
市町村担当者の設置状況 各支部で41市町の担当者を設置
県や連合会に案内を送ったところ加西市に派遣を進めることが出来た。
（元々8市町には派遣していた）
協力依頼方法 人脈 公募昨年実施2～3 応募なしもあり。
支部の活動の温度差について ないとは言えないが、必ず行う課題がある。
その他は各支部の特色に合わせてできればと考えている。
コロナのリモートの関係で支部を超えた参加も増えてきている。

青年ネットワーク 3年前から活動している。若年層の会員に情報共有を目的にしている。
連盟と共同して年2回集まって行っているが。人数は集まりにくい。
管理者ネットワーク 数年前から行っているが、様々な問題を抱えている。

支部毎に会議を年2回集まるように行っている。
働いているのはどんな施設なのか、人材育成をどうしているか、
実習をどうしているか、などを話している。

今後の兵庫県士会の目標の説明

他団体連携 リハ専門職三団体協議会の活動状況
兵庫県リハ三士会合同地域支援推進協議会
人材育成事業
人材登録
医師会や看護協会など他団体との関係性
兵庫県プライマリケア協議会
兵庫県リハビリテーション協議会
兵庫県医療職団体協議会 など

三団体で行う時の問題点は？

行政から問い合わせが来ても窓口がどこかという問題。

介護予防事業はSTが参加しにくい。

医師会との関係は？

まだ連携で来ているものはない。

休会制度についての意見

何年か経つと強制的に復会させる(案)

来年度の診療報酬について

これまでの経過として

9月6日に要望をだし、9日に単独で要望を出した。

20の要望が採用されている。

より急性期、在宅、予防管理の部分は評価されやすい。

NICUにおける理学療法 of 足りないようなところはいい印象である。

大きく出されるのは2月頃。

意見交換会は2回目を行う予定。

議題2 会長行動録

神戸市会議員と会談した。

神戸市議自民党予算会議出席。

日本理学療法士協会組織運営協議会出席。

士会で取り組んでいないのは、都市区医師会と連携協会を行えるような仕組みを検討する必要がある。

尼崎を例にして今後どうあるべきか検討していかないといけないと思っている。

神戸市は区別であるので、検討していただきたい。

議題3 現状確認および報告・検討事項

・都道府県士会広報担当者意見交換

11月12日19時から行う。担当理事2名が出席。

・ICT/DX推進委員会の常設部会への昇格について

昇格が承認された。情報管理部との関係などを詰めないといけないが、2,3年後、統合するか、協力体制の下、進めていくかを考えていく。名称については保留。

・がんのリハビリテーション研修事業

県士会で研修会を行っていききたい。県内の会員に優先的に行っていききたい。神戸大学の井上先生にはライフプランニングなどの連携をしてもらおう。担当は理学療法講習部にしたい。今年度の予算にないが、収入もあるため、予算はあまり必要ないと考えている。今年度はon lineで行う。まず、事前学習web研修を2か月前からしないといけないが、年度をまたいでも問題ないと考えている。

→承認された。

・33回兵庫県理学療法学会進捗状況

大会テーマ「伴歩」～生物心理社会モデルに基づくアプローチ～

開催趣意書(案)が提示された。ラインワークスに提示するので、数週以内に意見を担当理事まで。

・学会運営審議会

議長が交代する。

34回大会長の立候補を公募したが、立候補がなかった。なかった場合、学会運営審議会から推薦することになっている。そのため、推進者の提案があった。

→承認された。

・臨床実習講習部(仮)の部長任命について

全卒然教育部長候補が推薦された。

→承認された。

・理学療法士講習会の開催に向けた企画方法について

協会の方針で助成金有、無があったが、無がなくなった。テーマが5つ提示されている。それ以外については講習会として認めないことと協会から連絡があった。1県士会1年に1本のみ。来年度の講習会の応募受付は11月が締め切りなので、公募しないこととした。

ただ、先に公募を案内していたため、中止の連絡をした。5団体中1団体が承服しかねるとの返事であった。

→個人で全国から人を集めて研修会をする場合は、単独でポイント申請する方法もある。

協会の通達で出来ないが、単独の申請方法の事もお伝えし、県士会で協力できることはすると伝えることとなった。

・生涯学習部の部長任命について

1名推薦があった。→承認された。

・感染対策委員会

感染予防対策委員会 11月7日エキスパート育成研修会を開催する。収容人数の50%で40名予定。

実技も伴うが、感染対策を行って行く。まず、対面のノウハウを得るための位置づけもある。

→40名を超えた時、どうするかを考慮すること。定員は超えない。パイロット的な事業であり、対面がこれでよいということではない。報告はきっちり行うこと。

・研修部からどのような研修が行われるか、アンケートを行う予定。

・2月27日姫路マラソンの参加の判断を行いたい。感染委員会の回答がまだである。11月11日には返事をしていないといけない。医師会と看護協会はマラソン大会が開催されたら例年通りに人数を出すといっているが、人数が揃わない場合は少なくなるといっている。感染対策委員会の目安としては感染拡大期になれば、その時点で対面は禁止するという部分は守る。基本的には、感染対策委員会の決定に従うが、感染対策委員会で許可が出たとしても、状況によっては参加できないということを伝えておくこと。医師会、看護協会とも相談しながら行う。

・全国職能関連担当者会議に10月11日に参加した。

高年齢労働者の就労支援モデル事業について

本事業の参加を希望する都道府県を1～2士会選定する。

・管理者ネットワークを各支部年2回行っていききたいと考えている。

・職能部が10月25日研修会「理学療法士と関連法規について分かりやすく学ぶ」を開催する。

・財務の効率化と担当職員の配置について、財務担当職員を次年度の予算案に向けて検討するために、2名の理事と監事が検討することとなった。

次回部会
日時・場所

日時;令和3年 11 月 19 日(金)19時から
場所;web